B10 石川県能登半島における2004年ツツガムシ病発生とタテツツガムシの初確認

○及川 陽三郎¹, 高田 伸弘², 矢野 泰弘², 渡邊 晴二³, 池田 照明¹ (1金沢医科大学生体感染防御学 (医動物学), 2福井大学医学部病因病態医学講座, 3恵寿総合病院皮膚科)

Incidence of scrub typhus in 2004 and first confirmation of *Leptotrombidium scutellare* in Noto Peninsula, Ishikawa Prefecture

Oikawa, Y., Takada, N., Yano, Y., Watanabe, S., Ikeda, T.

2004年11月, 石川県能登半島の病院にて, 高熱と発疹を伴う患者を認め, つつが虫病が疑われた。患者は, ミノサイクリンの投与にて解熱し, 血清学的には, つつが虫病リケッチア *Kawasaki* 株に対し, 高抗体価を示した。患者への聞き取り調査にて, 羽咋郡鹿西町金丸の自宅付近にて感染した可能性が高いと考えられたため, 同年, 12月, ツツガムシ生息調査のため, 患者宅周辺で, 見取り法と野鼠の捕獲を行った。患者宅の裏手の山林では, 見取り法でタテツツガムシが採集され, 捕獲野鼠からも同虫が検出できた。一方, 近隣の長曾川の河原および川を挟んだ対岸の畑地や山林では, タテツツガムシは検出できなかった。患者は, 自宅裏手の山林に頻繁に出入りしており, 同地でつつが虫病に感染したと考えられた。尚, この症例の詳細については, 渡邊らにより, 第405回皮膚科学会 北陸地方会において発表された。

B11 隠岐諸島および島根県本土域におけるツツガムシ病の疫学的特性

○矢野 泰弘¹, 田原 研司², 板垣 朝夫², 藤田 博己³, 角坂 照貴⁴, 川端 寛樹⁵, 高田 伸弘¹ (1福井大学, 2島根県保健環境研究所, 3大原研究所, 4愛知医科大学, 5国立感染症研究所)

Epidemiological feature of tsutsugamushi disease in Oki Islands and Shimane Prefecture

Yano, Y., Tabara, K., Itagaki, A., Fujita, H., Kadosaka, T., Kawabata, H., Takada, N.

我々は科研調査「アジアにおける節足動物媒介感染症の拡散様式」を進める中で, 日本列島・大陸における島道の意義を探索している。昨年11月には島根県隠岐諸島および本土側において調査し, 種々の成果を得た。ツツガムシ病に関しては, 本県における患者発生の中心は東部中山間地域であったが, 2003年には隠岐海士町で初めて患者が確認されるなど, 近年発生動向に変化が見られる。これら地域の小哺乳類から3属10種のツツガムシを回収した。海士町と旧大東町のアカネズミには個体当たり各々平均190および15個体のフトゲツツガムシを, また他地方の島嶼で記録されていたバーンズツツガムシを海士町で確認した。タテツツガムシは調査地全域で認められなかった。そして, 野鼠血清の抗 *O. tsutsugamushi* 抗体はフトゲツツガムシ親和性の Karp 型が優占した。従って, 本地域のツツガムシ病は概ねフトゲツツガムシ媒介性と推察される。